

格差（不平等、相対的貧困）問題の中の ソーシャルワークの位置

研究科 1990年卒.

山崎 真弓

格差、不平等、相対的貧困は本質は同じ

格差・不平等

- ▶ 自分の所得や生活水準だけでなく、他者と比較して、自分が劣った状態にあること。
- ▶ その立場が固定的になっていて、変えられない。

相対的貧困

(例えばOECDの統計では中位所得の50%未満を指すなど、操作的に貧困線を設定する)

- ▶ その社会の平均的な水準の人々の生活と比べて、所得が低く、同じ生活様式をするための生活用品が所有できない。

他者との比較の中で無力感、みじめさ、剥奪感をもたらす

相対的貧困について

ピーター・タウンゼント(1970年代)

- ▶ 貧困の及ぼす人間生活への影響、無権利状態、社会的不利など質的な面を視野に入れる。
- ▶ 他者との比較において問題となる無力感、剥奪感
 - ▶ 他者との関係という、社会的な問題を視野に入れる。
 - ▶ (社会関係の問題)ー新しい貧困、社会的排除とも共通な視点、社会関係性を問題にする。

日本:阿部彩の2005年調査

16項目の指標

域値の存在:世帯所得400~500万以下

若年者・標準的なライフコースからの逸脱

▶ リスク・グループ

中年期における無配偶者
世帯内の傷病者の有無
母子世帯

**労働・就労・社会参加の活力を削ぐ相対的貧困
経済政策の前提条件(労働力の質の維持)**

疾病・離婚・離職などへの対応必要ー対人社会サービス(非貨幣的ニーズ)

貧困の構造的理解（相対的貧困と絶対的貧困）

貧困とは、「物質的な貧しさ」、「人間としての幸せ(Social Welfare 厚生)の不足」「潜在能力(生活を豊かにするライフチャンス)の不足」など

どのようにして、その社会の貧困の度合いを数量化して測るのか？

例)アマルティア・センの貧困測度

(貧困者比率・所得ギャップ比率・貧困者のジニ関数の集まり)

$P = H(I + (1 - I) \text{ジニ関数})$: H頭数比率 Iギャップ比率

貧困者比率(全人口に占める貧困者の割合)

所得ギャップ比率(貧困者の所得が貧困線からどれだけ下回っているか)

その社会の貧困の広がりや深さと考えられる。

(個人の所得の少なさだけで決まる貧困)

……絶対的貧困

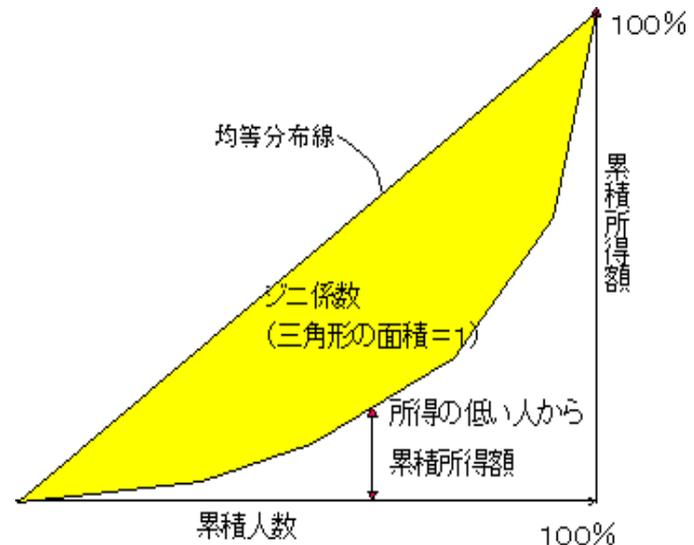
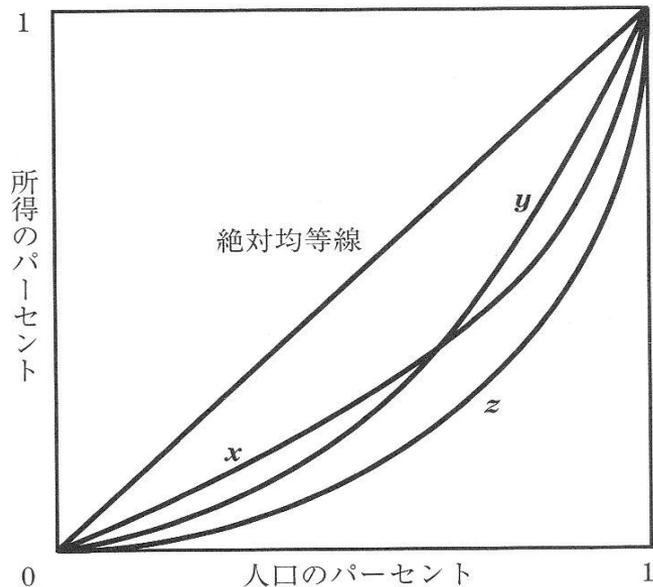
貧困者内部のジニ関数は、他者と比較による貧困の部分・・相対的貧困

貧困者が多い社会と少ない社会ではジニ関数部分の影響が違う
(相対的貧困は様々な側面(社会政治)が多重層的に関係する社会問題

ジニ関数

- ▶ 所得分布の不平等度を示す。
- ▶ 横軸に人数、縦軸に所得を取り、所得の低い人から順に並べた場合の所得累積額の描く曲線(ローレンツ曲線)と両端点を結ぶ直線(対角線=均等分布線)で囲まれる面積となる。ただし、軸と対角線で構成される三角形の面積を1とする。

面積が同じの場合、形の違いは捉える事ができない。(低所得層の増大、減少も)

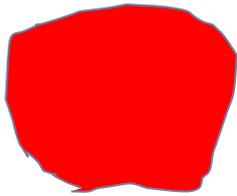


セン測度の中のジニ関数の均等分割線は貧困ラインである

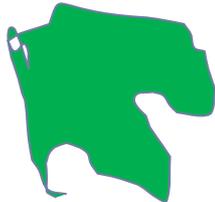
相対的貧困と絶対的貧困の関係

▶ 発展途上国

絶対的貧困

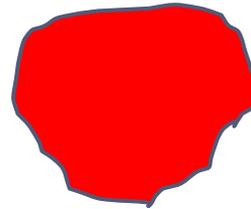


相対的貧困

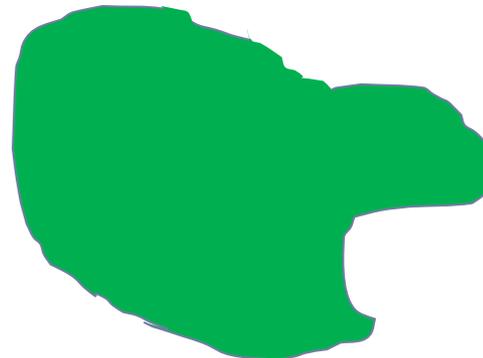


▶ 先進国

絶対的貧困



相対的貧困



我が国の現在

リーマンショック前後の変化

- ▶ 世代間の不平等度
- ▶ 野宿者の動向（派遣村など）
絶対的貧困状態
- ▶ 非正規と正規雇用の格差
- ▶ 子供の教育格差
（15歳時の出身世帯の貧困）

社会的排除、労働者の貧困は

あてはまるのでないか

労働分配率

子供を持つ世帯の所得

非正規雇用者用の労働宿舍

野宿者の平均年齢（56才）

国保税未納の動向



貧困に対する社会制度

脱貧困の制度体系

絶対的貧困と相対的貧困が混然一体的な
現代の貧困への対策

貨幣的

絶対的貧困——
所得や生活財の
公的給付

非貨幣的

+

相対的貧困(含新しい貧困)——
対人サービス(医療・
教育・福祉・社会参加)



所得保障と一体的な
各種社会サービス
利用を調整し支援
するソーシャルワーク相談

EUでは: 三位(社会サービス+所得保障+職業教育)一体の改革

社会制度とソーシャルワーク相談

(社会関係の中心にいる利用者)

岡村重夫による社会福祉の機能・目的・援助の一貫性と
アマルティア・センのケイパビリティ概念比較

	ケイパビリティ概念	岡村重夫の主体的側面
生活とは	財を評価し、活用して 生活機能(functions) を豊かにする	制度を利用して 人間の基本的要求を 充足する過程
人間存在 とは	財を評価し、活用する ライフチャンスを広げる エンパワーメントする存在	4つの社会福祉援助の原則 (社会性、全体性、主体性、現 実性)からみると、主体的側面 を実現する存在
社会制度 とは	個人の自立的活動を 促進するための 制度(社会保障プログラム)	個人の主体的側面により統合 され、主体的側面を実現するた めの制度(社会福祉の介在)

どちらも制度を利用する側の人間生活、社会生活を中心にして、制度を考える。
利用者の主体的側面を実現する・利用者のライフチャンス、ケイパビリティを拡大する

社会福祉の人間観とケースワーク原則

▶ 現金給付・現物給付

▶ 社会サービス

▶ (医療・介護・家事援助・保育・就労支援・職業教育・教育等)

利用者の生活問題から見て
利用方法を工夫する

ー利用者に寄り添うー
利用者の主体的側面の実現
ライフチャンスの実現
制度の進化・ワーカーの成長

ケースワークの原則: 自己決定権の尊重・非審判的態度・個別性の尊重
制度の多様な使い方・ピア関係の尊重・生活管理でないソーシャルワーク

▶ **制度と利用者をつなぐソーシャルワーク**

効率性と平等の関係を考える

例) 政策や仕事の効率性と、

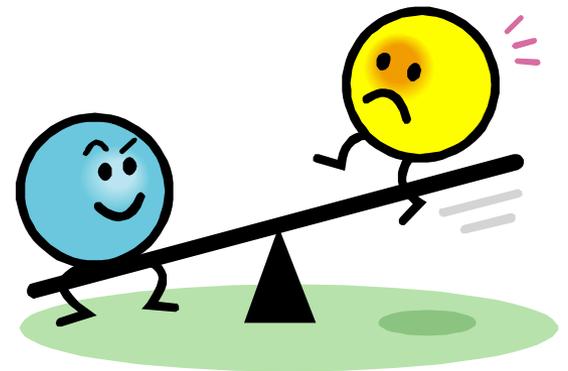
その政策や仕事の恩恵、効果がみんなに平等に行き渡ったか

効率性は--全体の側から見る

平等、不平等は--個人の側から見る

一方(効率性)を立てれば、もう一方(平等性)はおろそかになる

効率性の基準:
最大多数の最大幸福
パレート原理



不平等問題

▶ 何の不平等が問題なのか

所得、資産、職業選択、教育機会など
医療や介護などの社会サービスへのアクセス

(何の平等が人間社会として一番大切か?) **規範性**

▶ どの水準の人たちと比較して、不平等か?

文化、経済構造により平均的生活像は変わる、
それぞれの社会の所得分布には特徴がある

(どの準拠集団を基準とするのか?) **相対性**

一 経済問題であると同時に

社会問題、政治問題の側面も持つ 一
